

構造例示型(事例1) 常時汚泥移送停止による水質改善事例

【槽内状況】



通常の調整は汚泥移送停止。

事例番号	1		浄化槽メーカー	積水ホームテクノ(株)		
処理方式	嫌気ろ床接触ばっ気		浄化槽型式	SGS II		
法定検査日	平成 24 年 11 月 15 日		人槽	5 人槽	使用人員	4 人
測定項目	1次処理 1室	1次処理 2室	2次処理	処理水槽/沈殿槽	放流水	
スカム厚(cm)	8	0	—	0	透視度	17 度
堆積汚泥厚(cm)	20	15	0	0	DO	4.8 mg/ℓ
透視度(度)	5	6	12		pH	7.2

法定検査からの 状況連絡・指示内容	槽内状況	1次処理(2室)流出水透視度6度 2次処理槽内(接触ばっ気槽)透視度12度 生物膜が少なくSSが多い。 日平均汚水量 0.76m ³ /日 採水時間8:40				
	対策	1次処理流出水透視度が回復するまで常時汚泥移送を停止する。 攪拌水流を弱めるため、空気逃がしバルブを全閉から1/2回転開く。				
保守点検からの措置 返信内容	11月20日	指示通り実施しました。			透視度	16 度
					DO	5.3 mg/ℓ
					pH	7.3
	12月4日	まだ浮遊汚泥が多く、攪拌水流を更に弱めるため片側ばっ気に変更しました。 (2室流出水透視度 9度)			透視度	22 度
				DO	3.7 mg/ℓ	
				pH	7.3	
12月18日	接触ばっ気槽の底部堆積汚泥厚3cmあり汚泥移送を実施する。 (2室流出水透視度 14度)			透視度	27 度	
				DO	2.9 mg/ℓ	
				pH	7.5	
1月8日	生物膜の生成あり、通常ばっ気に戻す。 空気逃がしバルブ1/2回転開変更せず。 (2室流出水透視度 19度)			透視度	38 度	
保守点検				DO	3.3 mg/ℓ	
				pH	7.3	

【ポイント】



① 常時汚泥移送 2.00/分
移送されているのは、水ばかりで
汚泥は少ない。

② 1室の清掃口から2室へ汚泥が
押し流されている。
常時汚泥移送の影響。

③ 計量ボックス内にスライムは
付着しているが汚泥は少ない。